



2020年度 シェアサイクル利用実態調査報告書（概要版）

2021年3月

一般財団法人
自転車産業振興協会
Japan Bicycle Promotion Institute

調査実施の概要①

調査目的

本調査は、シェアサイクルの利用システムが整備されつつあることを踏まえ、11大都市におけるシェアサイクルの利用実態を把握し、地方自治体を始めとする関係各方面に広く活用していただくことを目的とした。

調査内容

シェアサイクルの使用実態調査

(1) 調査対象及び地域

11大都市（札幌、仙台、東京23区内・外、埼玉、千葉、横浜、名古屋、京都、大阪、堺、福岡）在住の18～79歳の男女

(2) 調査項目

- ①シェアサイクルの利用状況
- ②シェアサイクルの満足度
- ③シェアサイクルと自己所有自転車との比較
- ④シェアサイクルによる行動の変化
- ⑤シェアサイクルの改善要望点

調査実施の概要②

調査方法

インターネットアンケート調査（アイブリッジ株式会社のモニターで実施）

有効回答数

600件 ※ 調査対象者：定期的不定期に関わらず現在シェアサイクルを利用しているひと

(n表)

	18～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70～79才	計
北海道札幌市	9	8	10	11	7	5	50
宮城県仙台市	8	8	8	15	10	1	50
東京都23区内	8	8	8	8	9	9	50
東京都23区外	8	8	9	9	7	9	50
埼玉県さいたま市	10	9	11	11	6	3	50
千葉県千葉市	9	9	11	14	6	1	50
神奈川県横浜市	8	8	8	12	9	5	50
愛知県名古屋市	9	9	13	13	5	1	50
京都府京都市	13	12	14	9	1	1	50
大阪府大阪市	8	8	8	16	8	2	50
大阪府堺市	9	9	10	16	2	4	50
福岡県福岡市	11	12	10	13	4	0	50
計	110	108	120	147	74	41	600

実施時期

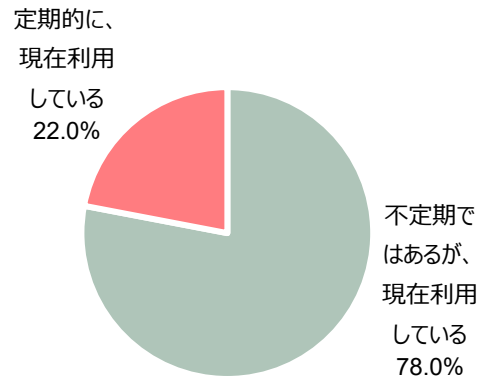
令和3年（2021年）2月8日（月）～2月24日（水）

調査機関

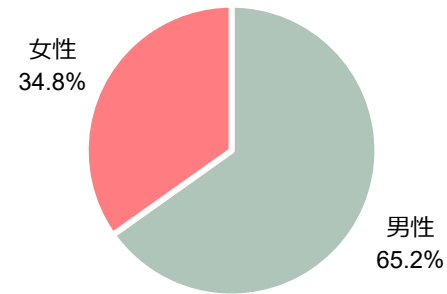
株式会社アイスタット <http://www.istat.co.jp/>

回答者属性①

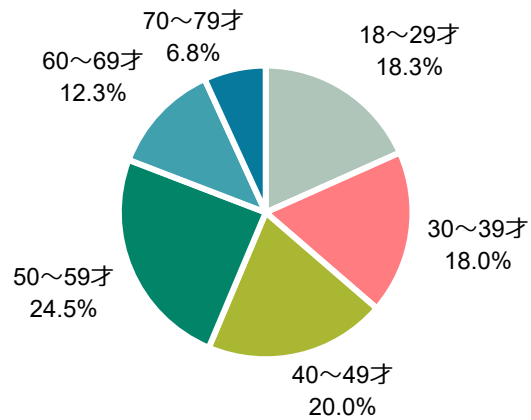
利用有無 (n=600)



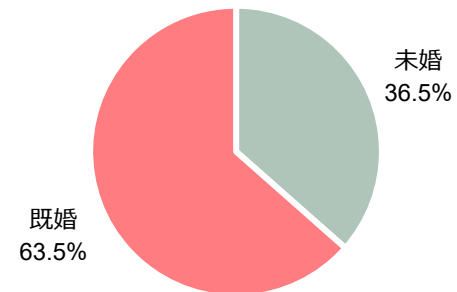
性別 (n=600)



年齢 (n=600)

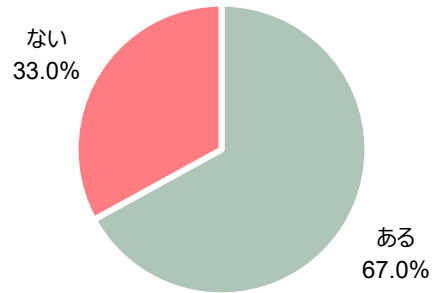


婚姻状況 (n=600)

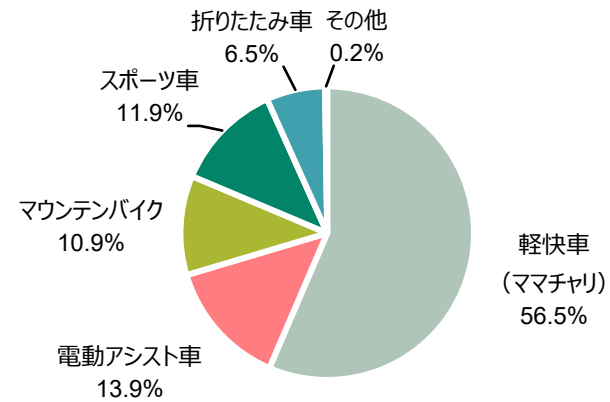


回答者属性②

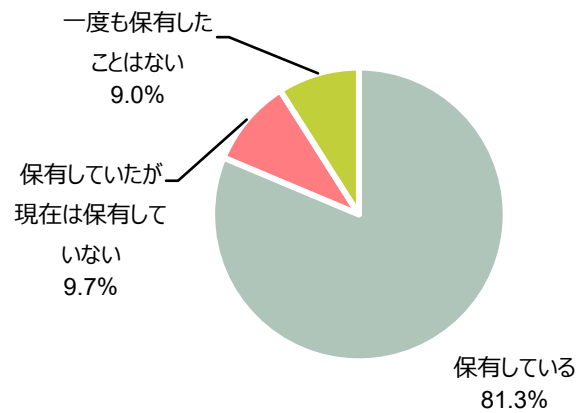
自転車所有 (n=600)



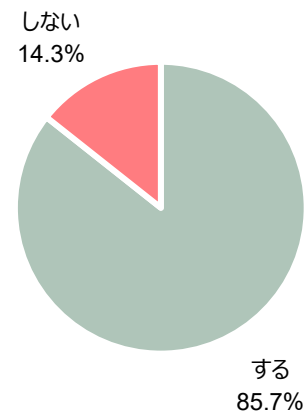
自転車使用種類 (n=402)



自動車運転免許 (n=402)



自動車運転有無 (n=488)





調査結果

利用用途

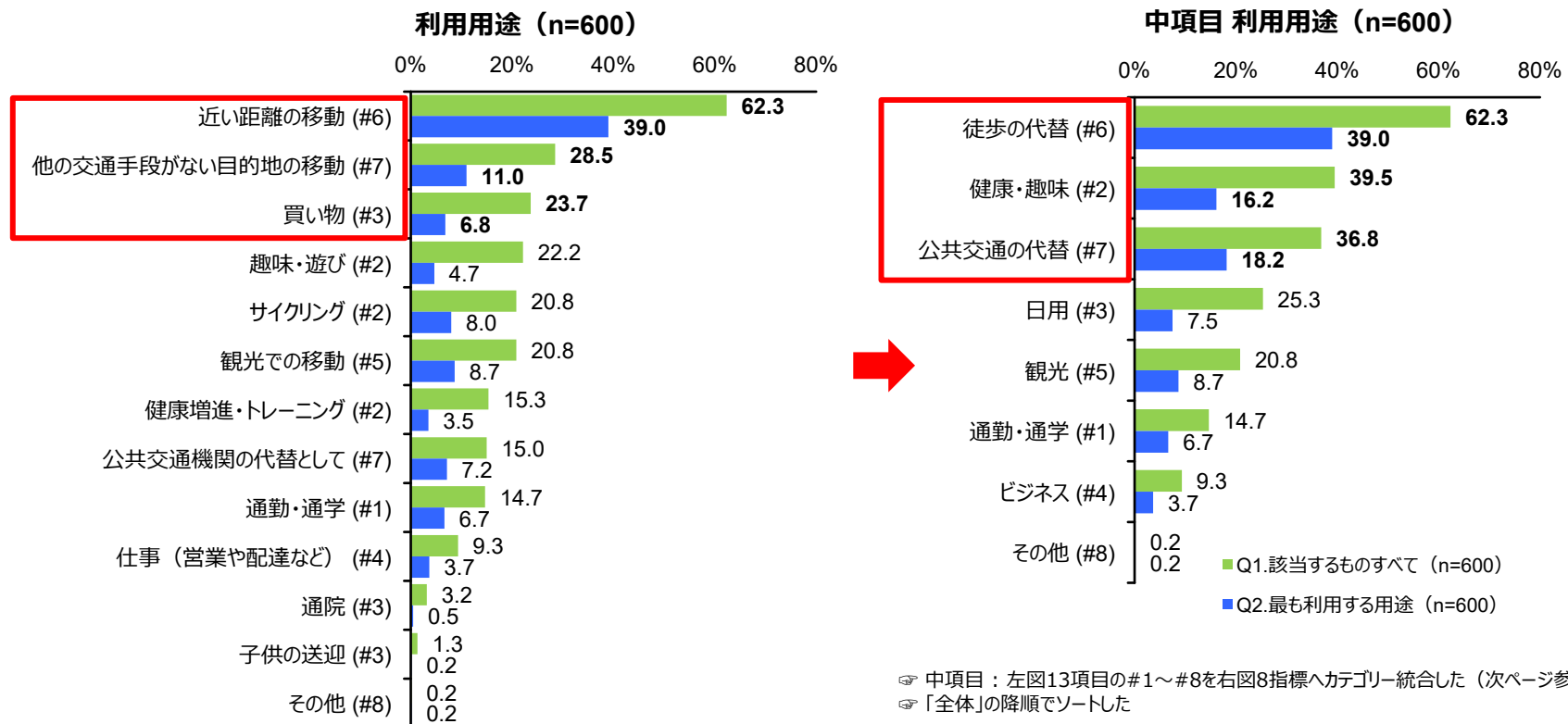
シェアサイクルを利用する用途（Q1）は「近い距離の移動（62.3%）」が最多、次いで「他の交通手段がない目的地の移動（28.5%）」、「買い物（23.7%）」と続く。

最も利用する用途（Q2）は「近い距離の移動（39.0%）」が最多、次いで「他の交通手段がない目的地の移動（11.0%）」、「買い物（6.8%）」と続く。

Q1、Q2の左図13項目を右図8指標に統合した中項目の分析では、特に「徒歩の代替」「健康・趣味」「公共交通の代替」の割合が高い。

Q1.シェアサイクルを利用する用途をお知らせください。該当するものすべて選択してください。（回答はいくつでも）

Q2.シェアサイクルを利用する用途をお知らせください。最も利用する用途を1つだけお知らせください。（回答はひとつ）



利用用途 中項目の作成方法

シェアサイクルを利用する用途（Q1,Q2）の質問13項目を中項目の8指標へ紐づけた。
紐づけた8指標は下記の通りである。

Q1.シェアサイクルを利用する用途をお知らせください。該当するものすべて選択してください。（回答はいくつでも）

Q2.シェアサイクルを利用する用途をお知らせください。最も利用する用途を1つだけお知らせください。（回答はひとつ）

Q1,Q2の質問（13項目）

通勤・通学	(#1)
趣味・遊び	(#2)
サイクリング	(#2)
健康増進・トレーニング	(#2)
買い物	(#3)
通院	(#3)
子供の送迎	(#3)
仕事（営業や配達など）	(#4)
観光での移動	(#5)
近い距離の移動	(#6)
他の交通手段がない目的地の移動	(#7)
公共交通機関の代替として	(#7)
その他	(#8)



中項目（8指標）

通勤・通学	(#1)
健康・趣味	(#2)
日用	(#3)
ビジネス	(#4)
観光	(#5)
徒歩の代替	(#6)
公共交通の代替	(#7)
その他	(#8)

※左図と右図を#で紐づけて統合した

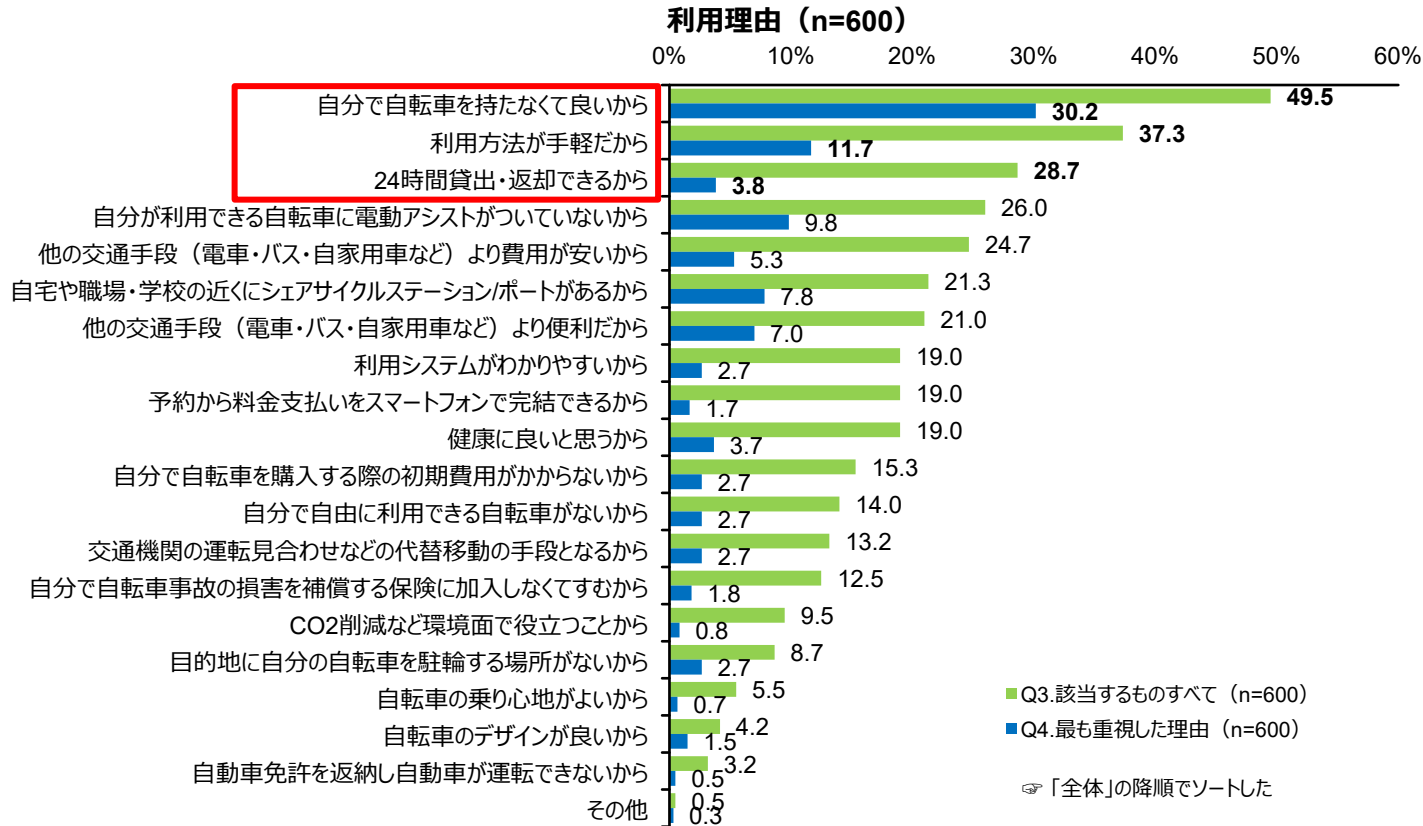
利用理由

シェアサイクルを利用する理由は「自分で自転車を持たなくて良いから（49.5%）」が最多、次いで「利用方法が手軽だから（37.3%）」、「24時間貸出・返却できるから（28.7%）」と続く。

最も重視する理由は「自分で自転車を持たなくて良いから（30.2%）」が最多、次いで「利用方法が手軽だから（11.7%）」、「自分が利用できる自転車で電動アシストがついていないから（9.8%）」と続く。

Q3.シェアサイクルを利用されるのはどのような理由からですか。次の理由のうち該当するものを全てお知らせください。（回答はいくつでも）

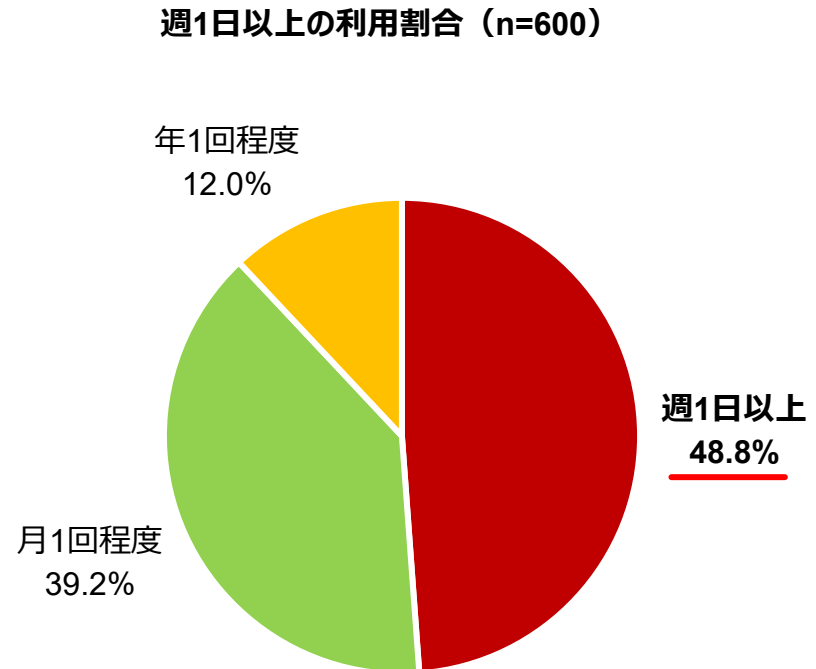
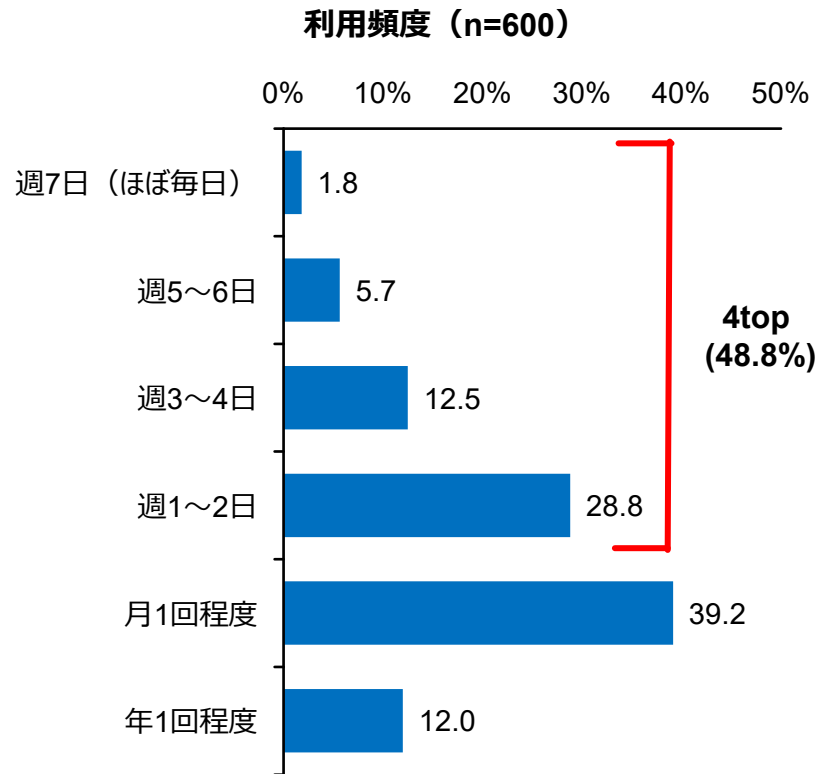
Q4.シェアサイクルを利用する理由は何ですか。最も重視した理由を1つだけお知らせください。（回答はひとつ）



利用頻度

シェアサイクルの利用頻度は「月1回程度（39.2%）」が最多、次いで「週1～2日（28.8%）」、「週3～4日（12.5%）」と続く。
シェアサイクルを1週間に1日以上利用している人は全体の約半数（48.8%）であった。

Q5.シェアサイクルを1週間に何日ぐらい利用していますか。（回答はひとつ）

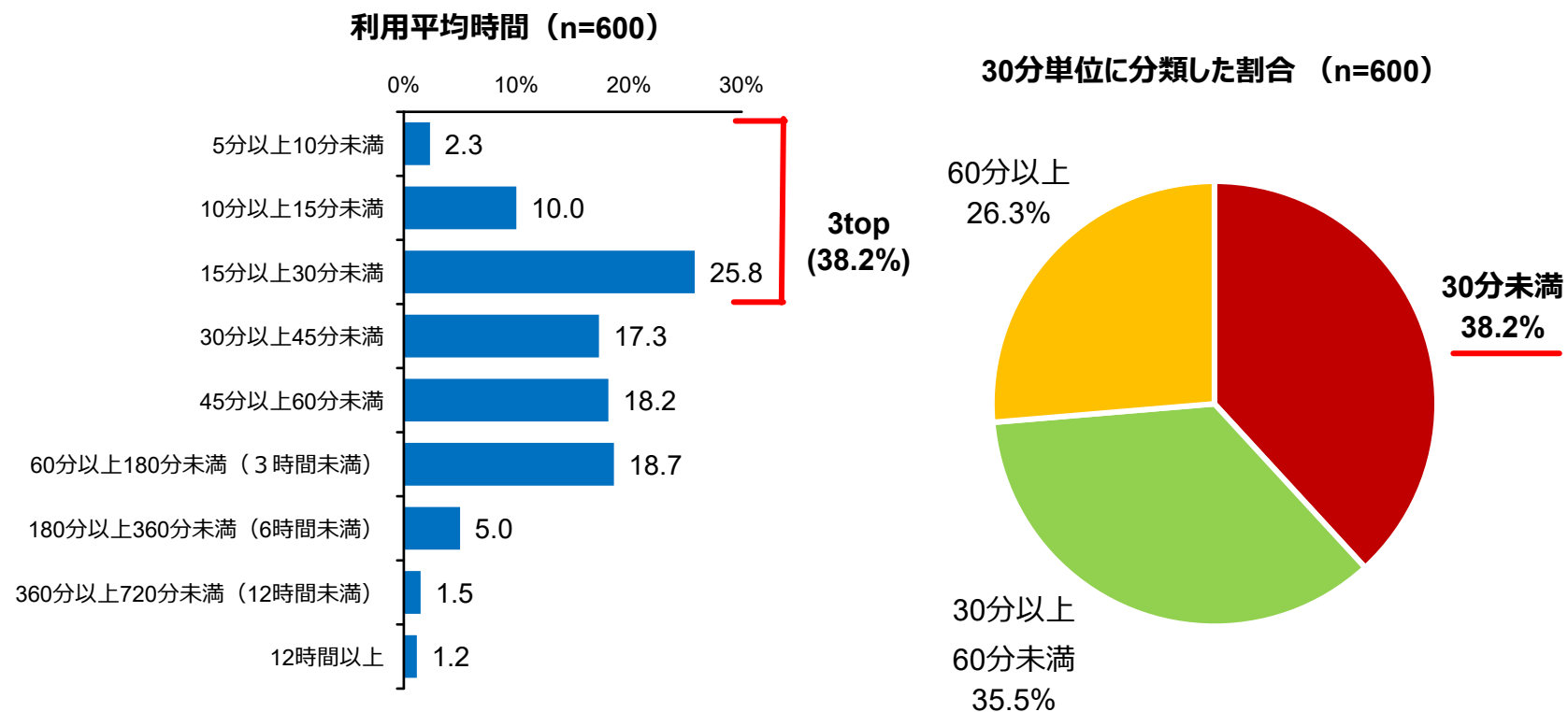


利用平均時間

シェアサイクルを利用する1日の平均的な時間は「15分以上30分未満（25.8%）」が最多、次いで「60分以上180分未満（3時間未満）（18.7%）」、「45分以上60分未満（18.2%）」と続く。

30分単位に分類した割合は「30分未満」が全体の約4割（38.2%）であった。

Q6.シェアサイクルを利用する1日の平均的な時間はどのくらいですか。（回答はひとつ）

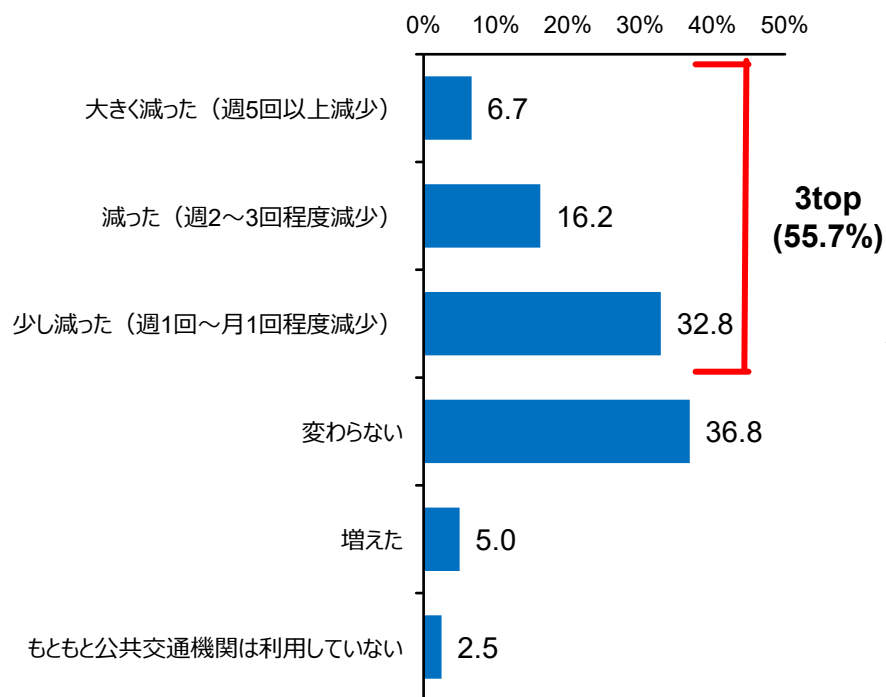


公共交通機関利用頻度変化

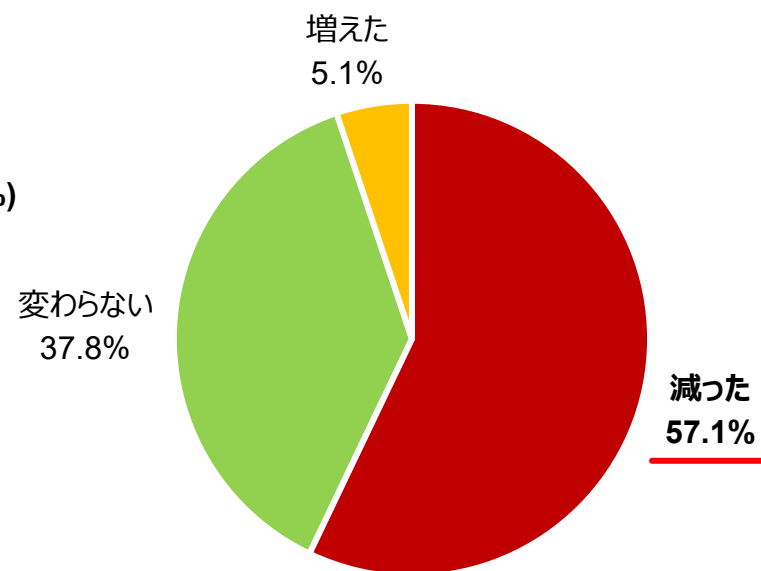
シェアサイクルを利用するようになってからの公共交通機関の利用頻度は「変わらない（36.8%）」が最多、次いで「少し減った（週1回～月1回程度減少）（32.8%）」、「減った（週2～3回程度減少）（16.2%）」と続く。利用頻度変化を増減の3カテゴリーに分類した割合を見ると、「減った」は全体の57.1%であった。

Q7.シェアサイクルを利用するようになってから公共交通機関の利用頻度に変化がありましたか。（回答はひとつ）

公共交通機関利用頻度変化（n=600）



公共交通機関利用頻度変化の増減割合（n=585）

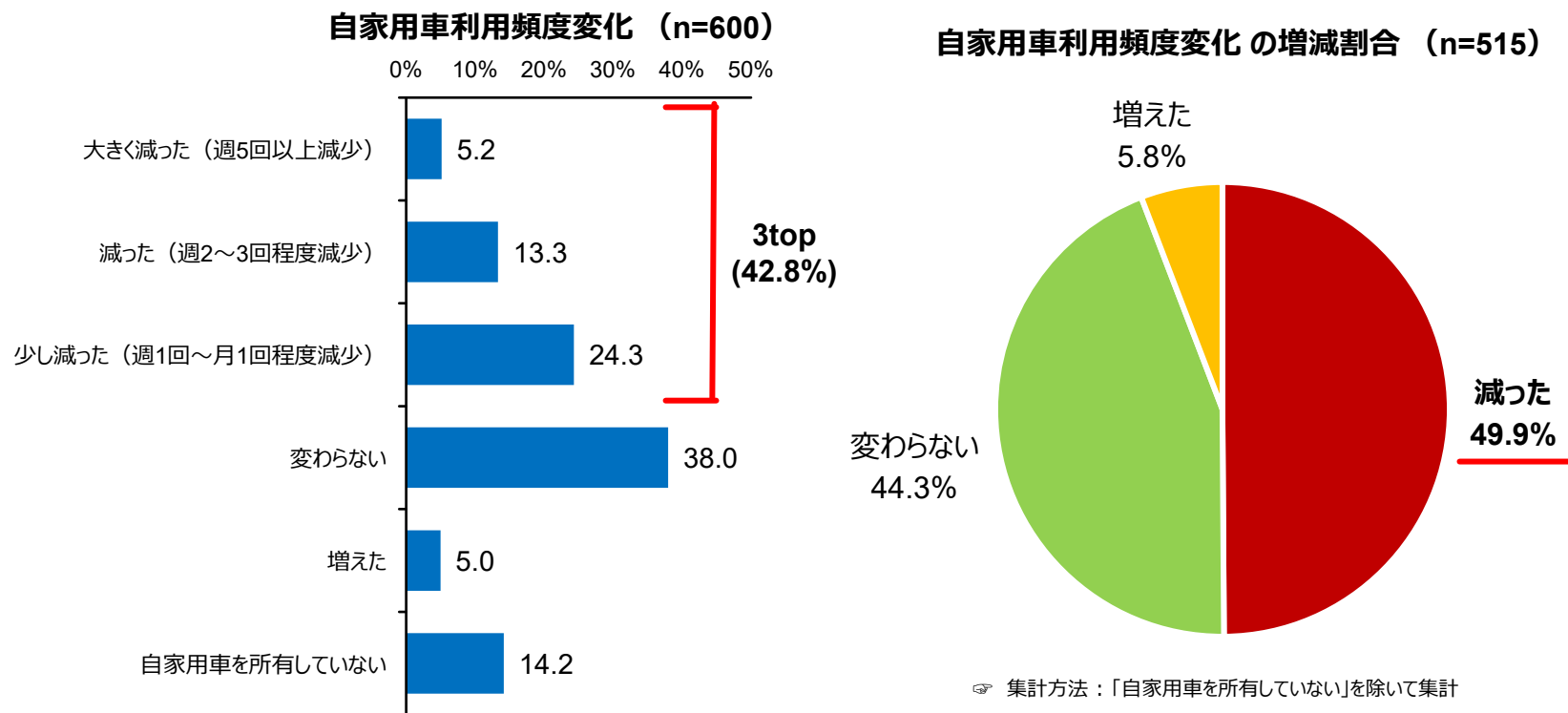


集計方法：「もともと公共交通機関は利用していない」を除いて集計

自家用車利用頻度変化

シェアサイクルを利用するようになってからの自家用車の利用頻度は「変わらない（38.0%）」が最多、次いで「少し減った（週1回～月1回程度減少）（24.3%）」と続く。
利用頻度変化を増減の3カテゴリーに分類した割合を見ると、「減った」は全体の約半数（49.9%）であった。

Q8.シェアサイクルを利用するようになってから自家用車の利用頻度に変化がありましたか。（回答はひとつ）

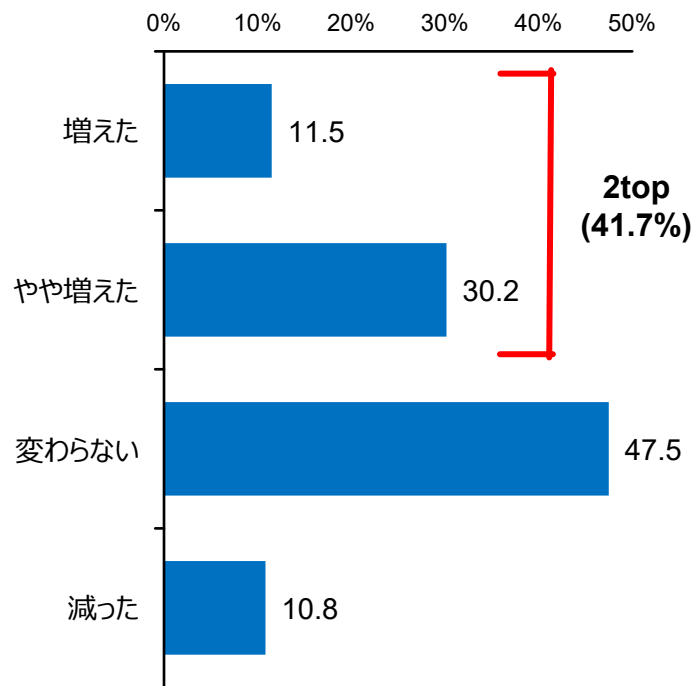


コロナ禍利用頻度変化

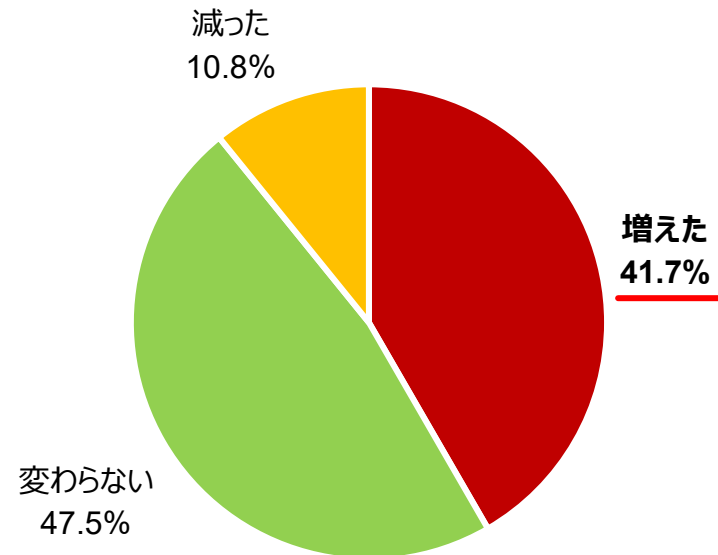
コロナ禍によるシェアサイクルの利用頻度変化は、「増えた（41.7%）」、「変わらない（47.5%）」、「減った（10.8%）」となった。
密を避けた移動手段として、シェアサイクルの利用ニーズが高まり、利用頻度が増加傾向にあった。

Q9.コロナ禍で、シェアサイクルの利用頻度に変化がありましたか。（回答はひとつ）

コロナ禍利用頻度変化（n=600）

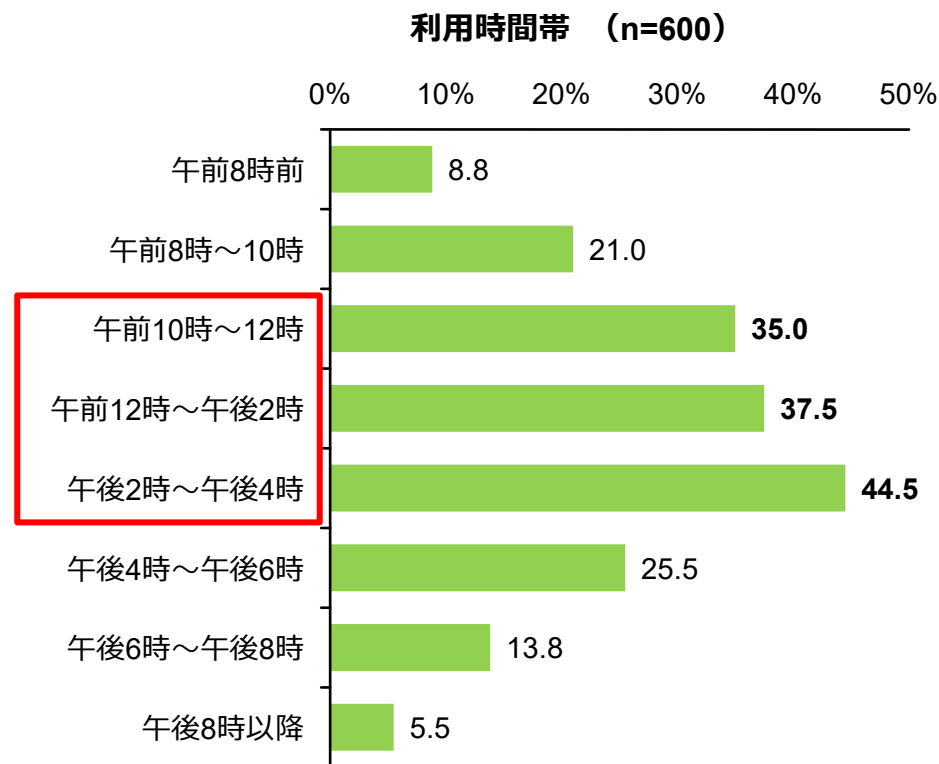


コロナ禍による利用頻度変化の増減割合（n=600）



シェアサイクルを利用する平均的な時間帯は「午後2時～午後4時（44.5%）」が最多、次いで「午前12時～午後2時（37.5%）」、「午前10時～12時（35.0%）」と続く。

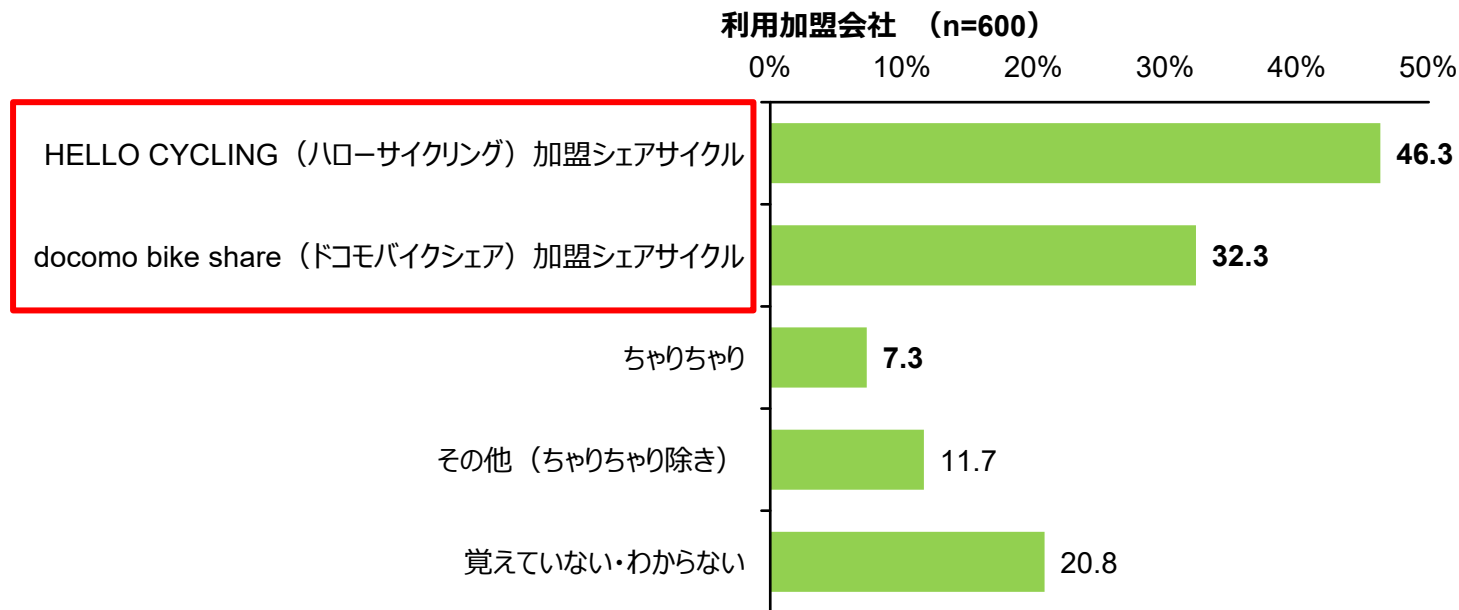
Q10.シェアサイクルを利用する平均的な時間帯をお知らせください。
長時間にわたる場合、複数の時間帯をお知らせください。（回答はいくつでも）



利用加盟会社

利用しているシェアサイクルを加盟ごとに、5つのカテゴリーに分類した。
利用加盟会社は、「HELLO CYCLING（ハローサイクリング）加盟シェアサイクル（46.3%）」、「docomo bike share（ドコモバイクシェア）加盟シェアサイクル（32.3%）」、「ちやりちやり（7.3%）」となった。

Q11.どの会社のシェアサイクルを利用していますか。（回答はいくつでも）



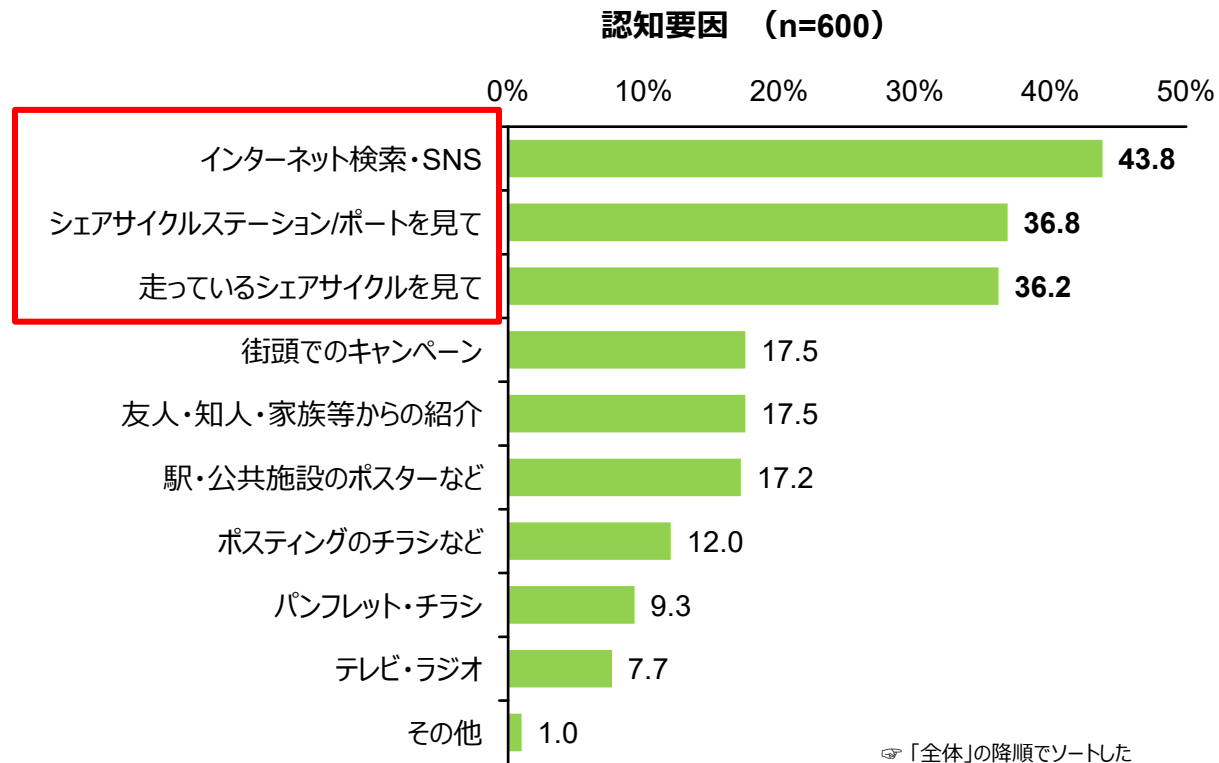
☞ 「利用加盟会社」の降順でソートした

認知要因

シェアサイクルを知ったきっかけは「インターネット検索・SNS（43.8%）」が最多、次いで「シェアサイクルステーション/ポートを見て（36.8%）」、「走っているシェアサイクルを見て（36.2%）」と続く。

ポートや走っているシェアサイクルを見かけたことによるものが多かったことから、ポートやシェアサイクルが目にとまりやすかったことで認知度が上がったものと考えられる。

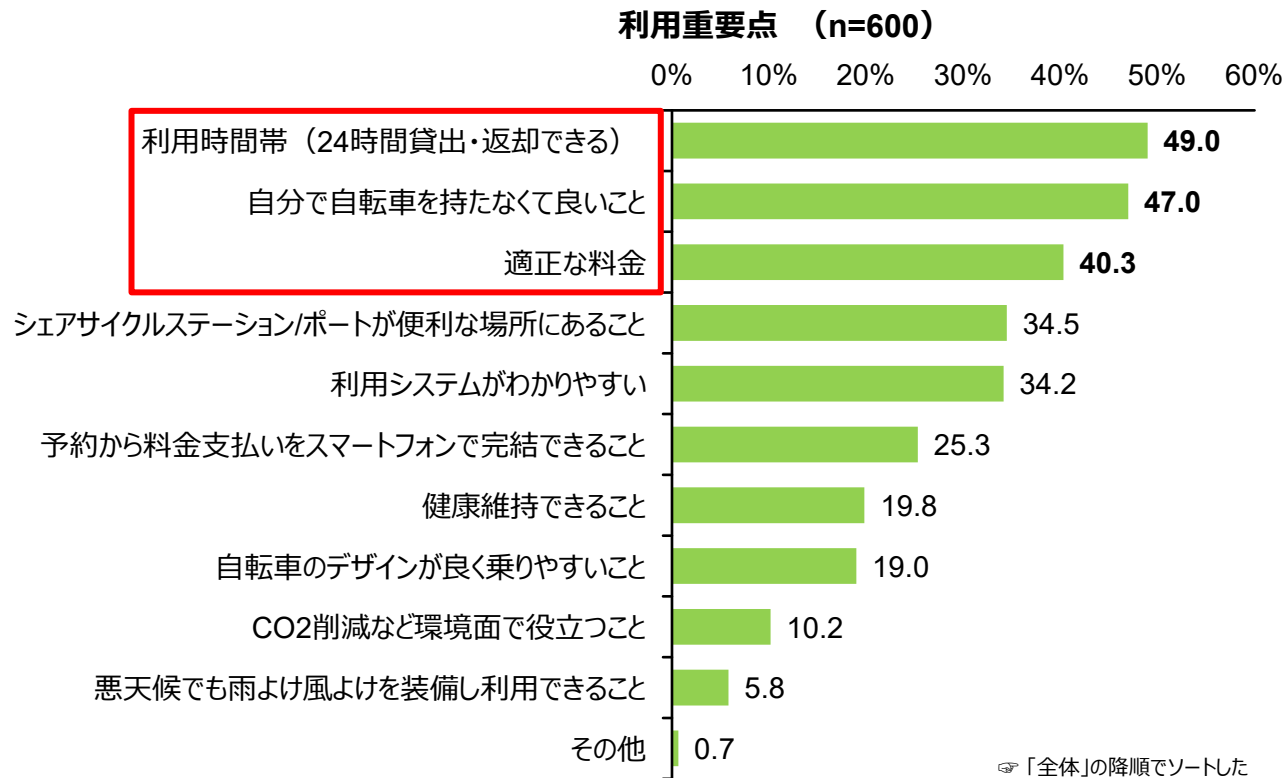
Q12.シェアサイクルを知ったきっかけについてお知らせください。（回答はいくつでも）



利用重要点

シェアサイクルを利用するうえでの重要な点は「利用時間帯（24時間貸出・返却できる）（49.0%）」が最多、次いで「自分で自転車を持たなくて良いこと（47.0%）」、「適正な料金（40.3%）」と続く。「24時間貸出・返却できる」というニーズに応えやすい登録システムや料金体系にすることで、シェアサイクル利用者は増加するものと考えられる。

Q13.シェアサイクルを利用するうえで、どのような点が重要だと思いますか。当てはまるものいくつかでも選択してください。（回答はいくつでも）



利用満足度

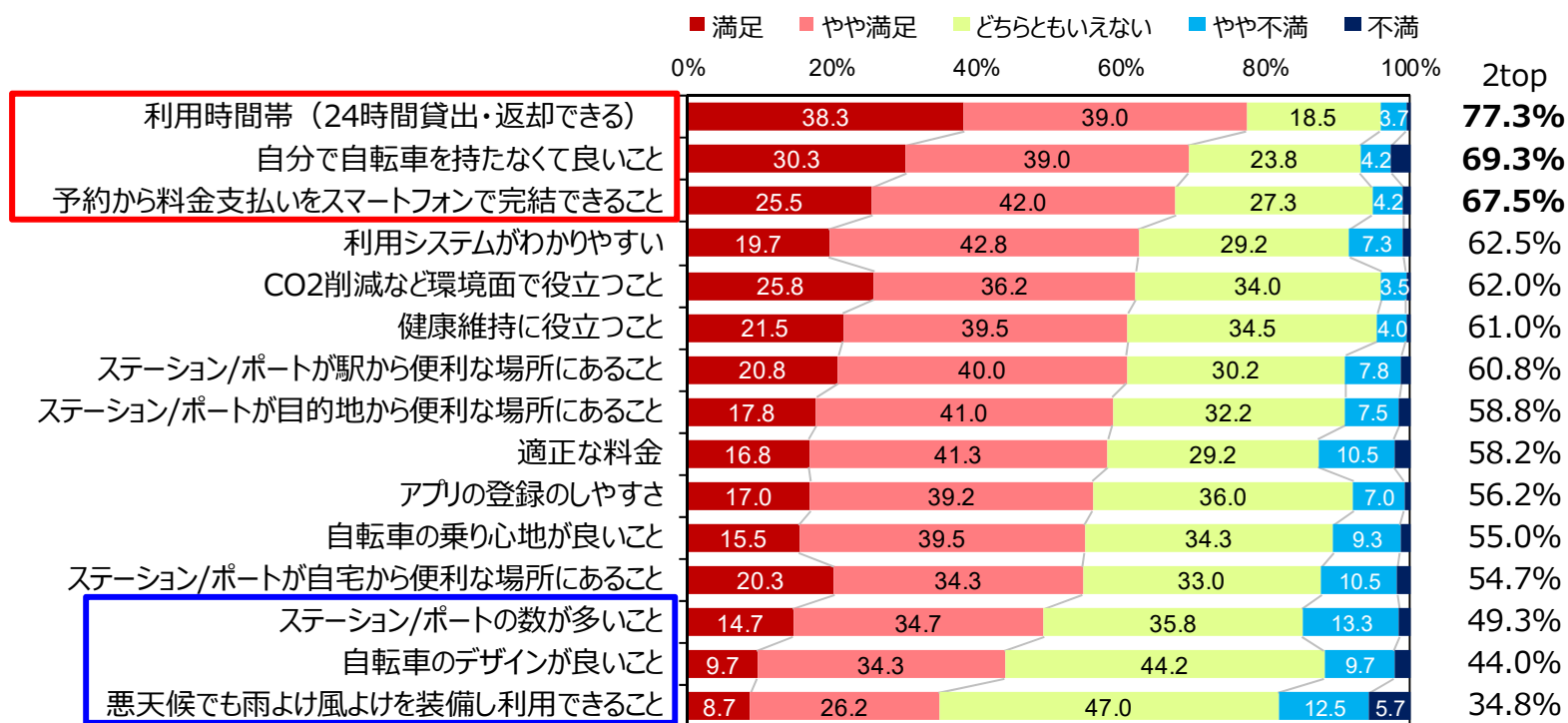
シェアサイクル利用満足度（2top割合）をみると「利用時間帯（24時間貸出・返却できる）（77.3%）」が最多、次いで「自分で自転車を持たなくて良いこと（69.3%）」、「予約から料金支払いをスマートフォンで完結できること（67.5%）」と続く。

満足度の低い項目としては「悪天候でも雨よけ風よけを装備し利用できること」、「自転車のデザインが良いこと」、「ステーション/ポートの数が多いいこと」が挙がる。

Q14.シェアサイクルの利用で、次のことにどの程度満足していますか。

「不満」から「満足」までの5つの区分のなかで、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（回答は横にみてひとつ）

利用満足度（n=600）

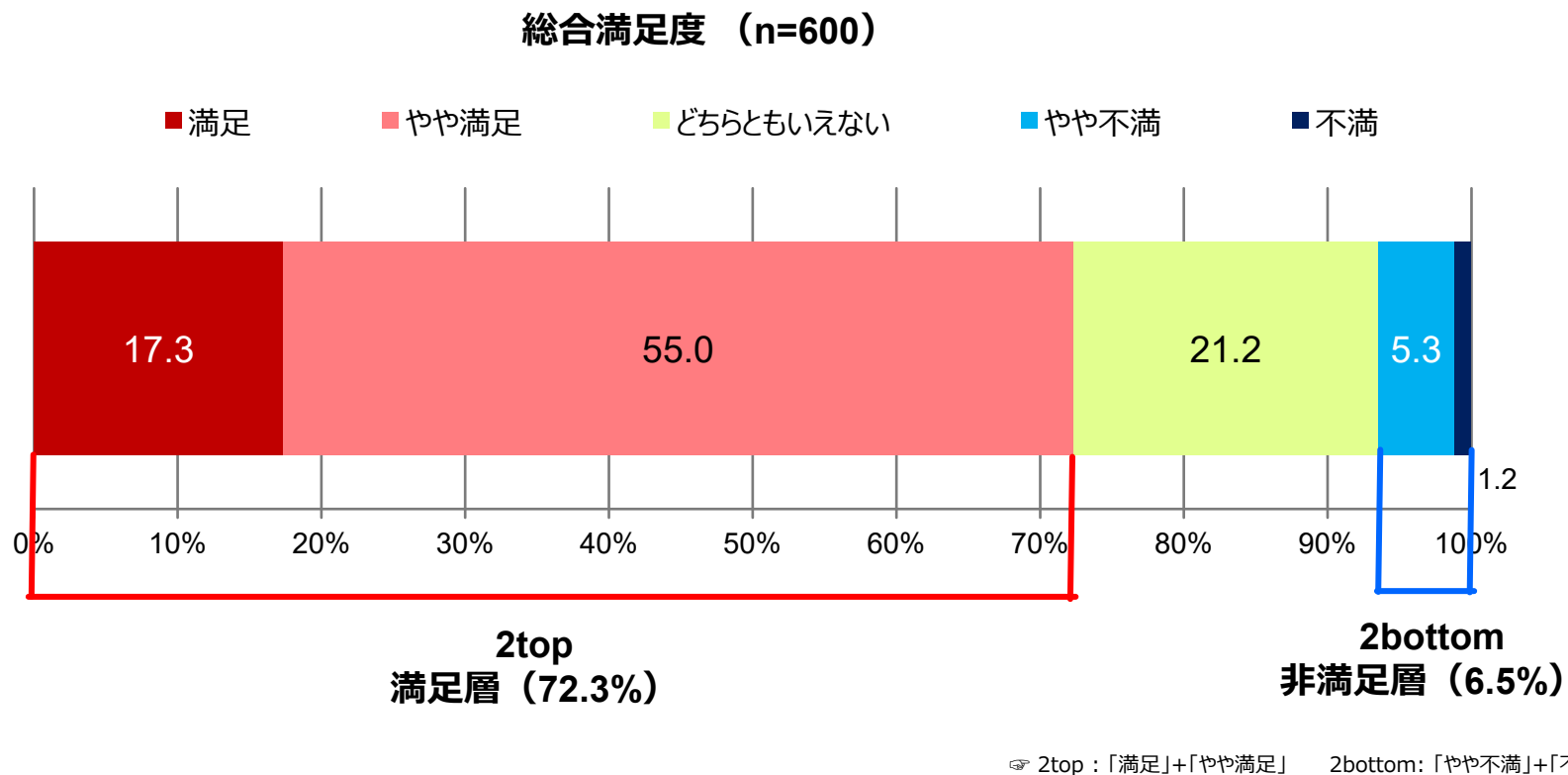


「2top満足率」の降順でソートした 2top : 「満足」+「やや満足」

総合満足度

シェアサイクル総合満足度の満足層（2top割合）は72.3%、非満足層（2bottom割合）は6.5%とその差は65.8ポイント。

Q15.シェアサイクルを総合的にみてどの程度満足していますか。（回答はひとつ）





end of file